

## 全国のがん登録の動向について

### 2020年院内がん登録全国集計

#### 【2020年院内がん登録の概要】

がん診療拠点病院を含むがん診療病院863施設（新規のがんの約72.5%をカバー）、1,040,379例のデータを集計したもの。2021.11.26国立がん研究センターHPで公開

- ・ 2020年は前年と比較し、594施設で**全登録数が60,409件減少（平均4.6%減）**。  
10年以上継続して全登録数（新規にがんの診断や治療を受けた例）が増えてきた中で初めてのこと。
- ・ 男女とも肝臓はほぼ横ばい。**男性で胃・大腸、女性で乳房・胃の登録数が減少**。

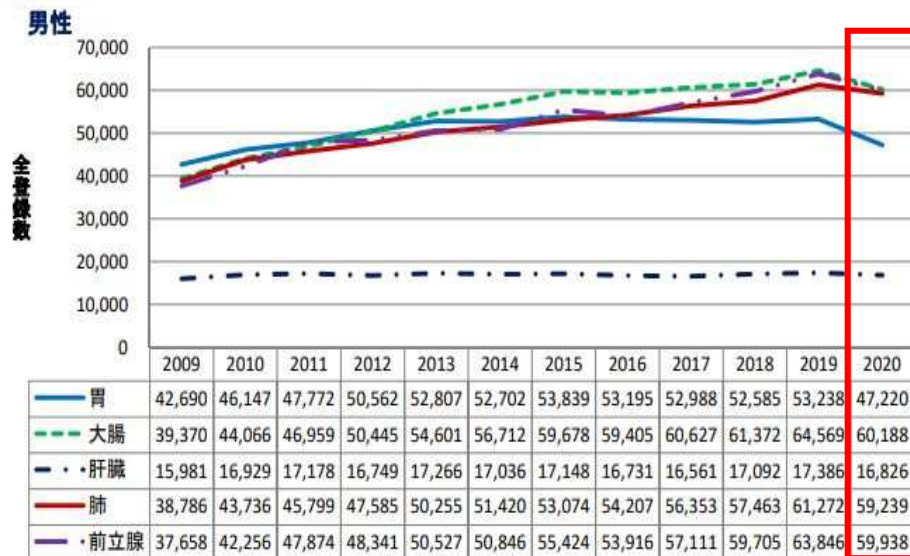


図 2-2 がん診療連携拠点病院等における主ながんの全登録数の推移

(上皮内がん等を含む、男女別、都道府県推薦病院、小児がん拠点病院 6 施設、任意参加病院を除く)

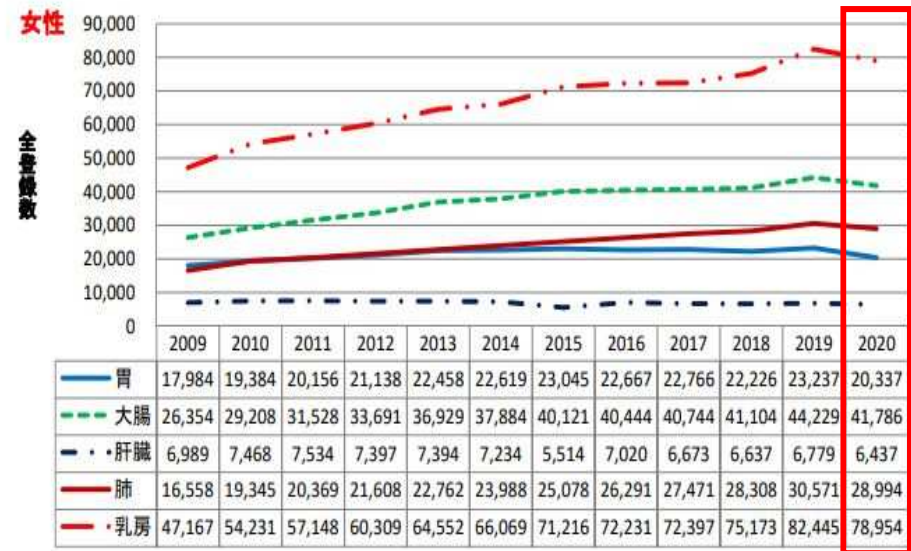


図 2-3 がん診療連携拠点病院等における主ながんの全登録数の推移

(上皮内がん等を含む、男女別、都道府県推薦病院、小児がん拠点病院 6 施設、任意参加病院を除く)

## 岡山市がん対策推進条例施行10周年に関連した取組み

### がんを知ろう展 (9/16~17市役所1階市民ホール)



患者会、岡山産業保健総合支援センター、岡山大学病院がん相談支援センター等にご協力いただきました。



### レディオモモ (9/7放送)

岡山大学病院腫瘍センター久保寿夫先生に最新のがん治療、がん検診の重要性等についてお話しいただきました。



### 市民のひろば おかやま (9月号掲載)



### Oniビジョン 市政広報番組 「いきいき おかやま」 (9月後半放送)



#### 岡山市がん対策推進条例



## HPVワクチンの積極的勧奨再開について

## 経緯

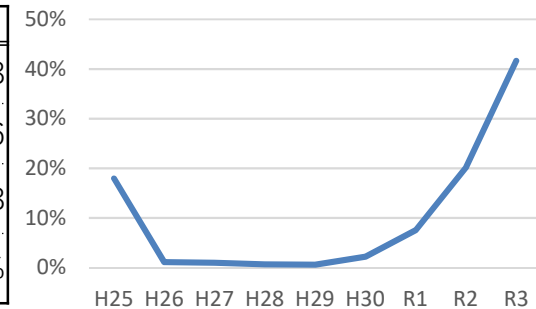
HPVワクチンは小学校6年生～高校1年生相当の女子を対象として平成25年4月に定期接種となった。接種後に疼痛等が特異的に見られたことから、平成25年6月に積極的勧奨を中止した。令和2年9月の国の専門部会で、自治体から接種対象者及びその保護者に接種についての検討・判断が適切にできるように、情報提供資材を個別送付するよう自治体に通知が行われた。令和3年10月の国の専門部会で、ワクチンと接種後の多様な症状の関連性は明らかでなく、安全性や有効性を示すデータが国内や海外で集まっているなどとして積極的勧奨の再開が決定された。

## 岡山市の接種状況

※R3は見込(R3.4～R3.9末の実績から算出)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
①総件数(件)	1,799	110	108	65	60	205	709	1,909	3,948
②推計接種者数(人)	600	37	36	22	20	68	236	636	1,316
③中1女子の数(13歳)	3,346	3,329	3,569	3,299	3,244	3,125	3,123	3,157	3,158
④接種率 ④=②/③	17.92%	1.10%	1.01%	0.66%	0.62%	2.19%	7.56%	20.20%	41.67%

## 接種率



## 岡山市の現状

R4.1現在で小学校6年生～高校1年生相当(H17.4.2～H22.4.1生)の女子は約16,000人。R2.9に高校1年生相当の女子の未接種者に個別通知送付、R3.6、7月に小学校6年生～高校1年生相当の女子の未接種者に個別通知送付、接種率が向上している。  
R4.4～小学校6年生～高校1年生相当の女子の未接種者に積極的勧奨の個別通知を実施し、接種率の向上を図る。

## キャッチアップについて

令和3年12月の国の専門部会で、積極的勧奨の差控えにより接種機会を逃した方に対し、公平な接種機会を確保する観点から、積極的な勧奨を差控えしている間に定期接種の対象であったH9年度～H17年度生まれまでの女子を対象としてキャッチアップ接種の実施が決定された。

【期間：R4.4～R7.3までの3年間】

## 岡山市の現状

定期接種の対象期間に小学校6年生～高校1年生相当(H9.4.2～H17.4.1生)だった女子が約30,000人おり、そのうち約24,000人(約8割)が未接種のまま対象年齢を過ぎてしまっている。R4.4～キャッチアップ対象者に個別通知開始。20歳以上の女子には、キャッチアップと併せて定期的な子宮頸がん検診受診を呼びかける予定。

## 岡山県小児・AYA 世代のがん患者等の妊孕性温存療法研究促進事業

将来子どもを産み育てることを望む小児・AYA 世代のがん患者等の方々が、希望をもってがん治療等に取り組めるように、将来子どもを出産する可能性を温存するための「妊孕性温存療法」に要する費用を一部助成する。

## ◆助成対象者について

- ・精子や卵子等の凍結保存時に 43 歳未満の方
- ・助成金の申請時に岡山県内在に住所を有している方 等

## ◆対象となる原疾患（がん等）の治療内容について

- ・「小児、思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関する診療ガイドライン」（日本癌治療学会）の妊孕性低下リスク分類に示された治療のうち、高・中間・低リスクの治療
- ・長時間の治療によって卵巣予備機能の低下が想定されるがん疾患：乳がん（ホルモン療法）等
- ・造血幹細胞移植が実施される非がん疾患：再生不良性貧血、遺伝性骨髄不全症候群、（ファンconi貧血等）、原発性免疫不全症候群、先天代謝異常症、サラセミア、鎌状赤血球症、慢性活動性EBウイルス感染症等
- ・アルキル化剤が投与される非がん疾患：全身性エリテマトーデス、ループス腎炎、多発性筋炎・皮膚筋炎、ベーチェット病等

## ◆対象となる妊孕性温存療法に係る治療内容及び助成額等について

助成対象となる費用は、妊孕性温存療法及び初回の凍結保存に要した医療保険適用外費用とし、助成回数は、対象者 1 人に対して通算 2 回までとする。1 回あたりの上限額については下記のとおり。

対象となる治療	上限額（円）
胚（受精卵）凍結に係る治療	35万
未受精卵凍結に係る治療	20万
卵巣組織凍結に係る治療	40万
精子凍結に係る治療	2万5千
精巣内精子採取術による精子凍結に係る治療	35万

※治療期間を同じくして不妊に悩む方への特定治療支援事業、その他の制度による不妊治療に係る助成金等の交付を受けている場合は、本事業の助成の対象外とする。

## ◆指定医療機関について

本事業の助成を受けるにあたっては、県が指定する指定医療機関で妊孕性温存の治療を受ける必要がある。指定医療機関については下記のとおり。

<指定医療機関>R4.1.1 現在

○岡山二人クリニック      ○三宅医院      ○岡山大学病院

## ◆申請先について

岡山県保健福祉部医療推進課疾病対策推進班へ 郵送又は持参

※事業の実施要綱及び申請に必要な書類は医療推進課のHPからダウンロードできます。

<URL> <https://www.pref.okayama.jp/page/718388.html>

# 今後5年のがん対策の方向性

令和2年度岡山市がん対策推進委員会より

- ①これまでの市のがん対策の4本柱のうち、  
「早期発見の推進」「がんと共生」を  
重点として取り組む

## 【市のがん対策4本柱】

- ・がんの予防（喫煙対策、がん教育）
- <重点> ・ **早期発見の推進**
- ・緩和ケア・在宅医療の推進
- <重点> ・ **がんと共生**

- ②世代に応じた対策を検討していくことで、  
より明確な対策としていく

### AYA世代 × 早期発見の推進/がんと共生

- ①子宮頸がん検診受診勧奨の取組
- ②妊孕性に関する支援

### 壮年期 × 早期発見の推進/がんと共生

- ①AYA~壮年期にかけて働く世代のがんの早期発見
- ②相談支援、両立支援に関する普及啓発
- ③相談支援体制の枠組みの強化

### 高齢期 × 早期発見の推進/がんと共生

- ①在宅医療、緩和ケア

### 世代共通 × 早期発見の推進/がんと共生

- ①がん検診の受け方の検討
- ②アピアランスケアについて

# 今後5年のがん対策の方向性進捗状況（令和3年度）

## 【早期発見の推進】

	条例制定10年目		11年目	
	【今後5年の方向性】		令和3年度	
			取組み予定	取組み内容
AYA世代	AYA世代① 子宮頸がん検診 受診勧奨の取組	1.疾病や検診の意義に対する理解と啓発	○SNSの活用や教育機関を通じた働きかけ等、対象に合わせた情報発信  ○地域からの要望に応じた健康教育	・岡山駅デジタルサイネージ広告掲示：特定健診・がん検診啓発(5月)、子宮頸がん検診啓発（8月学生夏休み） ・市の公式SNS(LINE、Twitter、Facebook)でのがん検診情報発信（8月） ・子宮頸がんも含めた地域でのがん教育の実施 71件2025人に実施(R3.12現在) ・東区愛育委員連絡会で子宮がんについて研修会を実施 愛育委員133人参加
		2.がん検診受診勧奨の取組	○文書送付による個別受診勧奨の実施（30歳）	・30歳女性3613人へ子宮頸がん検診個別勧奨(R3～) ・乳・子宮頸がん検診について地区回覧
	世代共通① がん検診の受け方の検討	1.世代に応じたがんとの共生を考えるにあたり、がん検診の受け方も検討していく	○国の動向に合わせ、世代に応じたがん検診の受け方、啓発方法を検討する	・がん検診啓発…AYA世代①-1参照 ・がん検診受診率向上プロジェクト企業のチラシ作成に協力 企業や地域で配布 ・ワクチン集団接種会場の待合にて動画で検診啓発
壮年期 (団塊ジュニア)	壮年期① AYA～壮年期にかけて働く世代 のがん対策	1.ターゲットを絞ったがん検診受診率向上、精検受診率の向上の取組み		
		・女性のがん検診受診率向上：乳がん、子宮頸がん ・大腸がん検診の受診率、精密検査受診率の向上	○子宮頸がん検診	・乳・子宮頸がん集団検診 市内7中学校区11会場17回で実施 ・がん検診啓発…AYA世代①-1・2参照 ・精検未受診者への個別勧奨 ・精検未受診理由の把握
		・肺がん検診の受診率向上及び精度管理	○肺がんレセプト分析	・レセプトから検査項目の把握は困難と判明 ・66歳男性3901人へ肺がん検診個別勧奨 ・国保特定健診受診券でのがん検診勧奨
	・岡山市国保被保険者を対象とした受診率向上対策	○国保被保険者の受診勧奨ターゲットとなる層の分析	・国保特定健診受診者のがん検診受診歴について分析	
	2.職域と連携したさらなる取組み			
・特定健診とがん検診のセット検診 ・職場で検診を受ける機会がない方(被扶養者やパート従業員等)に向けたがん検診の啓発	○被扶養者対象の特定健診＋乳がん検診のセット検診  ○がん検診受診率向上に向け、職域との連携について検討	・協会けんぽ被扶養者対象の特定健診＋乳がん検診セット検診実施 1～2月実施(R元年度442人、R2年度443人) ・協会けんぽと定例で協議 がん検診受診率向上対策 がん相談支援等の啓発 検診受診率データ等の情報共有		
世代共通① がん検診の受け方の検討	1.世代に応じたがんとの共生を考えるにあたり、がん検診の受け方も検討していく	○国の動向に合わせ、世代に応じたがん検診の受け方、啓発方法を検討する	・乳がん検診＋プレストアウェアネスの啓発 ・がん検診率向上プロジェクト企業のチラシ作成協力。 年代別に推奨するがん検診を掲載し企業・地域で配布。 ・ワクチン接種会場の待合動画で検診啓発。年代別に推奨のがん検診紹介。	
高齢期 (団塊世代)	世代共通① がん検診の受け方の検討	1.世代に応じたがんとの共生を考えるにあたり、がん検診の受け方も検討していく	○国の動向に合わせ、世代に応じたがん検診の受け方、啓発方法を検討する	・後期高齢者は健康保険証で検診が受けられることを啓発。 後期高齢者健診＋がん検診の同時受診勧奨。 ・胃がん検診は事前に偶発症を注意喚起し、内視鏡検査を勧める ・肺がん検診は65歳以上に法定定期結核検診としても啓発

## 【がんと共生】

	条例制定10年目		11年目	
	【今後5年の方向性】		令和3年度	
			取組み予定	取組み内容
AYA世代	AYA世代② 妊孕性に関する支援	1.妊孕性に関する知識の普及啓発		・乳・子宮頸がん検診の地区回覧で、子宮頸がんの知識として啓発
		2.妊孕性温存治療に関するニーズの把握	○ニーズ把握に向け、関係機関にヒアリングを行い、具体的な企画としていく。	・関係機関への相談。アンケート実施の検討。
	世代共通②アピ アランス	1.アピアランスケアに関するニーズの把握		

<b>壮年期</b> <small>(団塊ジュニア)</small>	壮年期② 相談支援、両立支援に関する普及啓発	1.拠点病院、労働関係機関、産業関係団体と連携した取組みで、職域への普及を図る	○かかりつけ医など、がん相談カードの配布先見直し	・がん相談窓口紹介カード、がん検診実施医療機関（かかりつけ医）を配布対象に追加 ・労働局主催の岡山県地域両立支援推進チームに参加し、治療と仕事の両立支援の推進に関して関係機関と情報共有 ・市役所市民ホールにて「がんを知ろう展」を開催、患者会・がん相談支援センター・産業保健総合支援センター等の協力を得て情報発信
		2.地域に向けたがん教育において、がんの早期発見に加え、がんとの共生を考える機会の提供	○地域でのがん教育を実施	・地域でのがん教育の実施状況 <b>【がんの予防】◇がん教育 参照</b> (がん教育の中でがん相談支援センターを紹介している) ・西地域愛育委員連絡会で女性がんについて研修会を実施。患者会代表を講師に、愛育委員45人参加
	壮年期③ 相談支援体制の枠組み強化	1.働く世代がより相談しやすい仕組みの検討 2.がん相談支援センターを核とした相談支援体制検討	・ニーズ把握に向け、関係機関にヒアリングを行い、具体的な企画としていく。	・関係機関への相談。アンケート実施の検討。
<b>高齢期</b> <small>(団塊世代)</small>	世代共通②アピアランス	1.アピアランスケアに関するニーズの把握		
	世代共通②アピアランス	1.アピアランスケアに関するニーズの把握		

## 【がんの予防】

	条例制定10年目		11年目	
	【今後5年の方向性】		取組み予定	取組み内容
<b>AYA世代</b>	AYA世代① 子宮頸がん検診受診勧奨の取組	1.疾病や健診の意義に対する理解と啓発	○SNSの活用や教育機関を通じた働きかけ等、対象に合わせた情報発信 ○地域からの要望に応じた健康教育	<b>【早期発見の推進】</b> AYA世代①参照
	壮年期 <small>(団塊ジュニア)</small>	◇喫煙対策 禁煙・受動喫煙防止・COPDの啓発	◇喫煙対策 禁煙・受動喫煙防止・COPDの啓発	◇喫煙対策 ・母子保健事業での受動喫煙防止対策 ・屋内禁煙施設に対し「空気のおいしい施設 ステッカー」の申込配布 125件(R3.12現在) ・肺がん検診で喫煙指数200以上の40・50代喫煙者へ禁煙個別勧奨 494件(R3.12現在) 禁煙外来受診チラシ・COPD啓発チラシ同封 ・健康市民おかやま21推進組織による学校連携での防煙教育は、新型コロナの影響で中止
<b>高齢期</b> <small>(団塊世代)</small>	◇喫煙対策 ◇がん教育	◇がん教育 ・外部講師を活用したがん教育の実施により、がん教育の充実を図る ・地域でのがん教育	◇がん教育 ・外部講師を活用したがん教育 ・R3~中学の学習指導要領でのがん教育全面施行 ・地域でのがん教育	◇がん教育 ・外部講師を活用したがん教育実施 2校750人 ・がんの成り立ちやがんを予防する生活習慣、がんの早期発見・検診、治療法などの内容を中学2年生の保健で必須項目として学習。 ・地域でのがん教育 71件2025人に実施(R3.12現在) R元年113件、R2年71件（コロナ影響により健康教育の機会減少）

## 【在宅医療・緩和ケア】

	条例制定10年目		11年目	
	【今後5年の方向性】		取組み予定	取組み内容
<b>AYA世代</b>	高齢期① 在宅医療・緩和ケア	1.在宅医療体制の整備を推進	・在宅医療体制の整備（在宅医療体制・人材育成）	・岡山市における医療連携のあり方等に関する協議会開催予定 ・在宅医療に従事する専門職の数・質向上のため各職能団体に各種人材育成、支援事業を委託（訪問診療、訪問看護、認定在宅介護対応薬局、介護支援専門員 等） ・病院退院支援職員への研修
		2.ACPの普及 <small>(高齢期におけるがん検診、がん治療、在宅医療や緩和ケア含め、がんとう付き合っていくか)</small>	・出前講座等によりACPの認知度を向上を図る	・出前講座以外に、4月から定期講座を月1回開催(平均15人参加) ・地域包括支援センターだよりや地区社協だよりACPや出前講座PR記事を寄稿 ・公民館担当者会議でACP、出前講座についてPRし、高齢者向け向けのシリーズ講座の一コマに入れてもらう（4館） ・9月に市民公開講座をハイブリットで開催（124人参加）
<b>高齢期</b> <small>(団塊世代)</small>				

## 令和3年度の取組み

## ①早期発見の推進

## 1. がん検診の受診勧奨

## (1) SNS、ワクチン集団接種会場等での情報発信

例年の広報の他に、岡山市の公式 SNS (LINE、Twitter、Facebook) での発信、新型コロナワクチン集団接種会場の待合動画、岡山駅デジタルサイネージの広告掲示で、がん検診の啓発を行う。

## (2) コール・リコール (個別受診勧奨)

	送付対象	送付件数 (※1)	受診状況 (※2)
乳がん検診	41 歳・無料クーポン	4,381	1,153 (26.3%)
	44・50・60 歳・未受診者	14,500	2,223 (15.3%)
子宮頸がん検診	21 歳・無料クーポン	3,708	397 (10.7%)
	30 歳・未受診者【新規】	3,613	237 (6.6%)
肺がん検診	66 歳男性・未受診者	3,901	537 (13.8%)

※1：送付時期は第5波を想定し、8月までに早めて実施

※2：令和4年2月末暫定値

## 2. 新型コロナウイルス感染症の影響

## (1) 集団検診の中止について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大 (第4波での緊急事態宣言) を受け、5月26日～6月20日の集団検診を中止。第5波以降は、緊急事態宣言期間中も感染防止対策のもと検診実施ができるように整備。

## (2) 検診の受診状況 (令和4年2月末暫定値)

	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮がん検診	乳がん検診
R3 受診者数	11,476 人	46,554 人	37,956 人	16,970 人	13,272 人
R2 年同月比	100.6%	99.6%	97.3%	101.5%	104.8%
R1 年同月比	83.0%	89.3%	90.4%	92.2%	85.1%

## (3) 精検受診状況 (令和4年2月末暫定値)

## ①令和2年度検診の精検受診状況

精検受診勧奨強化事業により、令和4年2月末時点での精検受診率はすべて許容値 (胃、肺、大腸、子宮で70%以上、乳で80%以上) に達した。

R2 精検受診率	胃がん検診	肺がん検診	大腸がん検診	子宮がん検診	乳がん検診
R3 年4月末時点	92.1%	66.0%	70.5%	88.6%	92.5%
R4 年2月末時点	92.7%	70.2%	77.2%	93.4%	95.9%

## ②令和3年度検診の精検受診状況

令和2年度勧奨していなかった肺がん検診 (医療機関実施分) の精検受診状況について、新型コロナによる精検受診控えの傾向がみられたため、すべての検診に対象を拡大して精検受診勧奨を実施している。



### ③がんの予防

#### 1. 受動喫煙対策

##### (1) 飲食店等へ受動喫煙対策について一斉通知

既存特定飲食提供施設から喫煙可能室設置施設（当面の間、店内の全部または一部を喫煙可能とする経過措置）に係る届出が少ないため、飲食店へ屋内禁煙施行の周知徹底と受動喫煙対策の情報提供を行う。

##### (2) 屋内禁煙施設専用標識「岡山市空気のおいしい施設ステッカー」の配布

屋内に喫煙場所を設けない施設に対し、岡山市の標識（ステッカー）を提供する。

**申込件数（令和4年2月末現在） 128件**

#### 2. 喫煙対策

##### (1) 喫煙者への禁煙外来受診勧奨

肺がん検診の受診者のうち、年度末年齢40～59才で喫煙指数（一日平均喫煙本数×喫煙年数）が200以上の受診者に、禁煙を勧めるとともにCOPD（慢性閉塞性肺疾患）と禁煙治療のリーフレットを送付する。

**送付件数（令和4年2月末現在） 1,120件**

#### 3. 母子保健事業における受動喫煙防止普及啓発等

こんにちは赤ちゃん事業（生後4か月までの全戸訪問）で受動喫煙防止パンフレットを配布する。また、おやこ手帳の交付時に妊婦・パートナーの禁煙を相談支援する。

## ○「がんに関する教育」について

### <目的>

現在、日本人の2人に1人が、がんになり、3人に1人ががんで亡くなると言われている。がんは、日常生活と密接に関係する疾患であり、がんを予防するためには、生活習慣を形づくる時の教育が大変に重要である、このことから、ある程度の理解力が備わり、また喫煙習慣や生活リズムの変化をきたしやすい中高生を対象とし、がんの理解と予防に関する知識を深めていくことを目的として、がんに関する教育を推進していく。

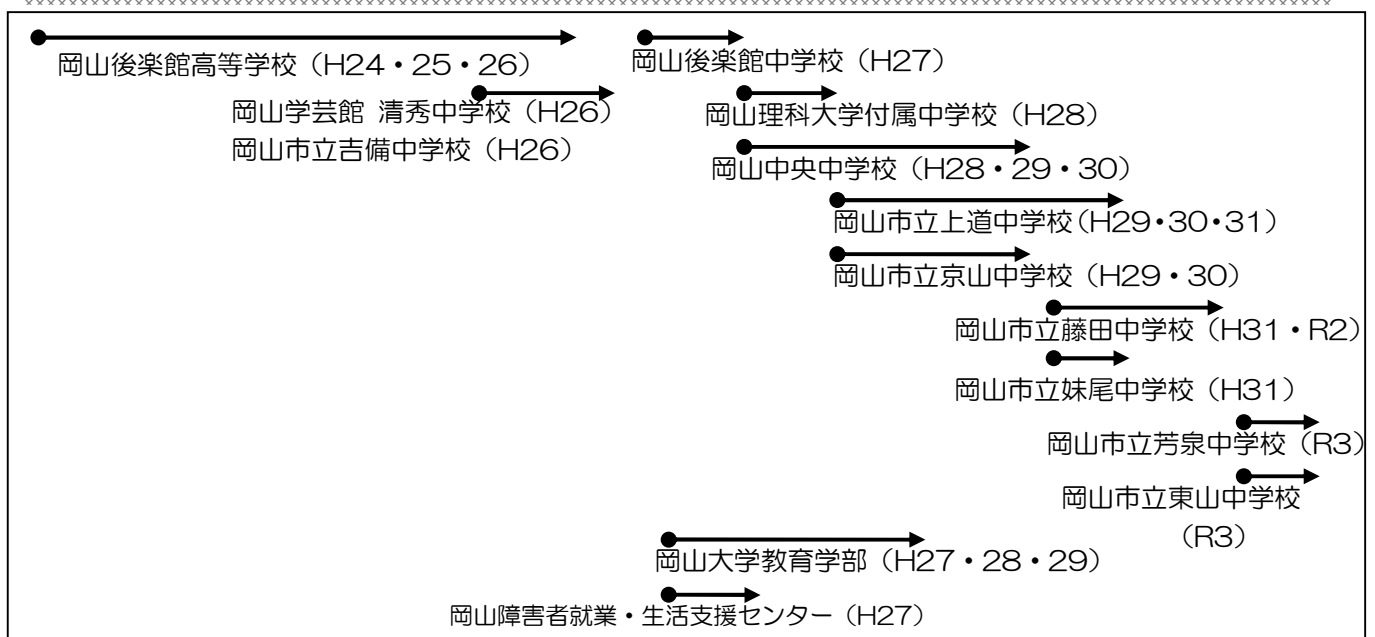
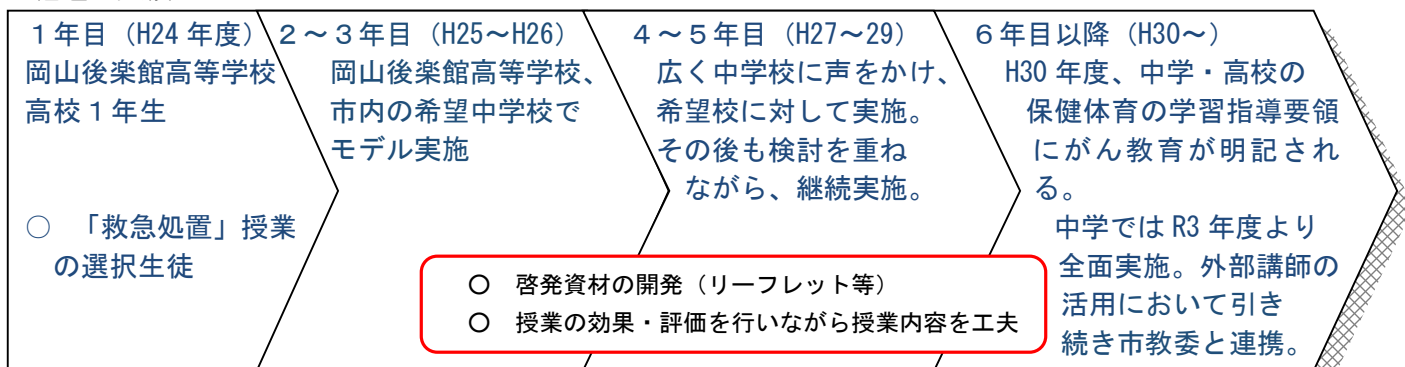
### <ねらい>

健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つように教育する。

### <方法>

- 1 モデル校・実施希望校におけるがん教育の実施（H24年度～）
- 2 教育啓発資材の開発 ⇒ リーフレットの作成・使用（平成26年3月末初版発行）
  - ・中学生や高校生にもわかり易い啓発資材を作成し、効果的ながんに関する教育を行う。

### <経過・実績>



## 3 授業内容

- 講師による講話：医師、保健師、栄養士等、がん患者、MSW等
- リーフレット：『知って欲しい「がん」のこと』…平成30年3月改定
- 授業時間：50分内容（がんに関する知識の講話中心）と100分内容（知識及びがん患者からの講話）の2通りのプログラム

# 岡山市における 在宅医療推進の取り組み

令和4年3月25日（金）

岡山市 保健福祉局 保健福祉部  
医療政策推進課 小藤 規裕

# コロナ禍における在宅医療の現状

## 主な現場の課題

- ◆面会制限 … 患者・家族の心理的不安。
- ◆入退院 … 面会制限のため、家族が患者の状態を十分把握できず退院となり、不安を抱える。
- ◆看取りの患者の在宅機関への受け入れ先が少ない。在宅で看取りができる医療機関が必要。
- ◆PCR検査や個室対応 … 医療機関や施設によって方針が様々。  
転院や施設移行時、過剰に実施して自己負担増。  
病院間での基準を統一もしくは理解できることが必要。
- ◆後方支援病院…見つからなくなった。
- ◆介護サービス…デイやヘルパーは県外の家族と接触したら一定期間利用中止。
- ◆介護現場の新規情報・知識の入手が医療機関に比べ遅れる。
- ◆医療・介護職員の外出・移動の制限。

# コロナ禍における在宅医療の現状

## 主な現場の工夫

- ◆家族等の面会制限 … オンラインの活用（時間も制限して実施）  
看取り患者は面会時の個室対応、人数の工夫

→在宅療養・在宅看取りを希望する患者・家族が増加傾向（訪問看護やMSW等の声より）

- ◆退院時カンファレンスの工夫 … オンラインの活用  
大きい部屋でソーシャルディスタンスを確保

- ◆防護服等の感染対策

- ◆電話や情報通信機器を用いた診療の導入

- ◆屋外（診療所駐車場等）での診療や検温等

- ◆オンラインを活用した研修会や地域コア会議等による多職種間での情報共有

# コロナ禍における在宅医療の現状

## コロナ禍において多職種連携は重要

各医療機関や在宅を支える専門職間で、お互いの現場の対応状況について知り、感染症の専門家や好ましい対応を行っている医療機関等のベストプラクティスを共有し取り入れる。

- 診療所と病院医師の情報交換
- 訪問診療支援事業でコロナ患者の在宅看取りの事例紹介
- 各種研修会や医薬懇話会等で保健所の取り組みを紹介
- 退院支援職員研修や地域コア会議等で、各医療機関等の対応状況を共有

新型コロナウイルス感染症を、  
正しく知って正しく恐れる

# 新型コロナウイルス感染拡大リスク軽減のための施策

令和2年度事業

## 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業 岡山市 ICT を活用した退院支援等 環境整備補助金事業

新型コロナウイルス感染症対策として、市内病院に対し、  
オンラインで退院支援カンファレンスが実施できる  
環境整備を支援

市内24病院で  
ICTを活用した退院支援の  
環境が整う

令和2年10月1日 岡山市医療政策推進課

### 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業 岡山市 ICT を活用した退院支援等環境整備補助金事業 のご案内

新型コロナウイルス感染症対策として、市内病院に対し、オンラインで退院支援カンファレンスが実施できる環境整備を支援します。

**補助の対象者**  
岡山市内に所在する病院  
※対象外となる病院もあります。

**補助の対象経費**

- ▶ オンライン会議のための専用の情報通信機器等の初期経費  
※新型コロナウイルス感染症対策として、サーバー等の経費は補助対象外です。  
※同じ用途で既に導入済みの機器は対象外です。
- ▶ オンライン導入に伴うサポート経費  
※オンライン導入時の費用（人材育成費）、オンライン導入後のサポート経費等

**補助の上限額**  
300千円/病院

**申請期限**  
令和2年12月25日（金）まで

**申請方法**  
岡山市ホームページから検索

[岡山市退院支援カンファレンス補助金](#)

※詳細は下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

**お問い合わせ先**  
岡山市 保健福祉局 保健福祉部 医療政策推進課  
地域ケア総合推進センター  
電話番号 086-242-3135  
受付は平日9:00~17:00

# 在宅医療・多職種連携に関する研修

コロナ禍においても、在宅医療に関わる人材の確保とスキルアップ、多職種連携、病院から在宅への円滑な移行を推進

## 訪問診療支援事業

### 【概要】

積極的に訪問診療に取り組む診療所を増やすとともに、情報交換や相互相談ができる在宅医療ネットワークの構築を図るため、訪問診療開始時に必要な知識やスキル、連携の手法・方法等の習得ができる研修会を開催。

### 【今年度の実施状況】

#### ◆委託先 市医師会

#### ◆第1回 令和3年11月8日(月) 19:30~21:00 ハイブリッド方式

・「COVID-19 在宅療養患者の訪問診療と訪問看護との連携」

のぞみクリニック 院長 小林 豊 氏

・105名参加(医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師ほか)

#### ◆第2回 令和4年2月10日(木) 19:30~21:30 予定 オンライン方式

・「岡山市最北の訪問診療から ~地域と、地域の歴史を愛すること~」

福渡病院 院長 堀内 武志 氏

・グループワーク

## 訪問看護体験研修事業

### 【概要】

潜在看護師を掘り起こすなど、訪問看護の従事者の増加や定着を図るための研修を実施。

### 【今年度の実施状況】

#### ◆委託先 県訪問看護ステーション連絡協議会

#### ◆参加状況 約40人(令和4年1月末時点)

#### ◆参考 令和2年度 21人(訪看ST就職者数 9人)

令和元年度 36人(訪看ST就職者数 9人)

※訪看ST就職者数は、各年度3月時点の人数

## 在宅療養支援強化事業

### 【概要】

本人の状態に応じた医療的ケア等の必要な支援が受けられるよう、市内の介護支援専門員に在宅医療に関する研修会を開催。

### 【今年度の実施状況】

#### ◆委託先 県介護支援専門員協会

#### ◆令和3年12月6日(月) 13:30~16:00 オンライン方式

・「コロナ禍における病院連携について」 岡山旭東病院 MSW 片岡志麻 氏

・グループワーク

・89事業所参加(89名参加)

## 退院支援職員研修事業

### 【概要】

退院支援に関わる病院職員を対象に、多職種連携の方法や課題の検討、情報共有を実施し、退院支援サービスの質向上を図る研修会を実施。

### 【今年度の実施状況】

#### ◆実施方法 直営

#### ◆第1回 令和3年11月10日(水) 18:00~20:00 オンライン方式

・新型コロナウイルス感染症の検査に関する知識について(岡山市立市民病院 医師)

・岡山市保健所の状況について(岡山市保健所 医師)

・コロナ患者の退院に関する情報(岡山市立市民病院 MSW)

・グループワーク

・44名参加(医師、看護師、MSWほか)

#### ◆第2回 令和4年2月2日(水) 18:00~20:00 予定 オンライン方式

・岡山市社会福祉協議会の活動紹介及び複合課題事例紹介(市社会福祉協議会)

・グループワーク



# 市民への普及啓発

市民が、住み慣れた地域で最期まで暮らしていけるように、在宅医療・介護のことや、終末期における本人や家族の納得のいく医療やケアが受けられるようACP「人生会議」の意識啓発を行っています。

## 市民公開講座(隔年開催)

- ◆開催日  
令和3年9月25日(土) 13:30～16:00
- ◆テーマ  
人生最終段階の準備はできていますか。  
～在宅医療とACP「人生会議」～
- ◆講師  
医療法人ゆうの森 たんぽぽクリニック  
理事長 永井 康徳 氏
- ◆参加者  
会場参加 35名 オンライン参加 89名



## 出前講座・定期講座

- ◆講師 地域ケア総合推進センター職員(社会福祉士ほか)

### 【出前講座】

年度	回数	参加人数(人)
平成29年度	95	2,550
平成30年度	60	2,015
令和元年度	64	1,826
令和2年度	20	376

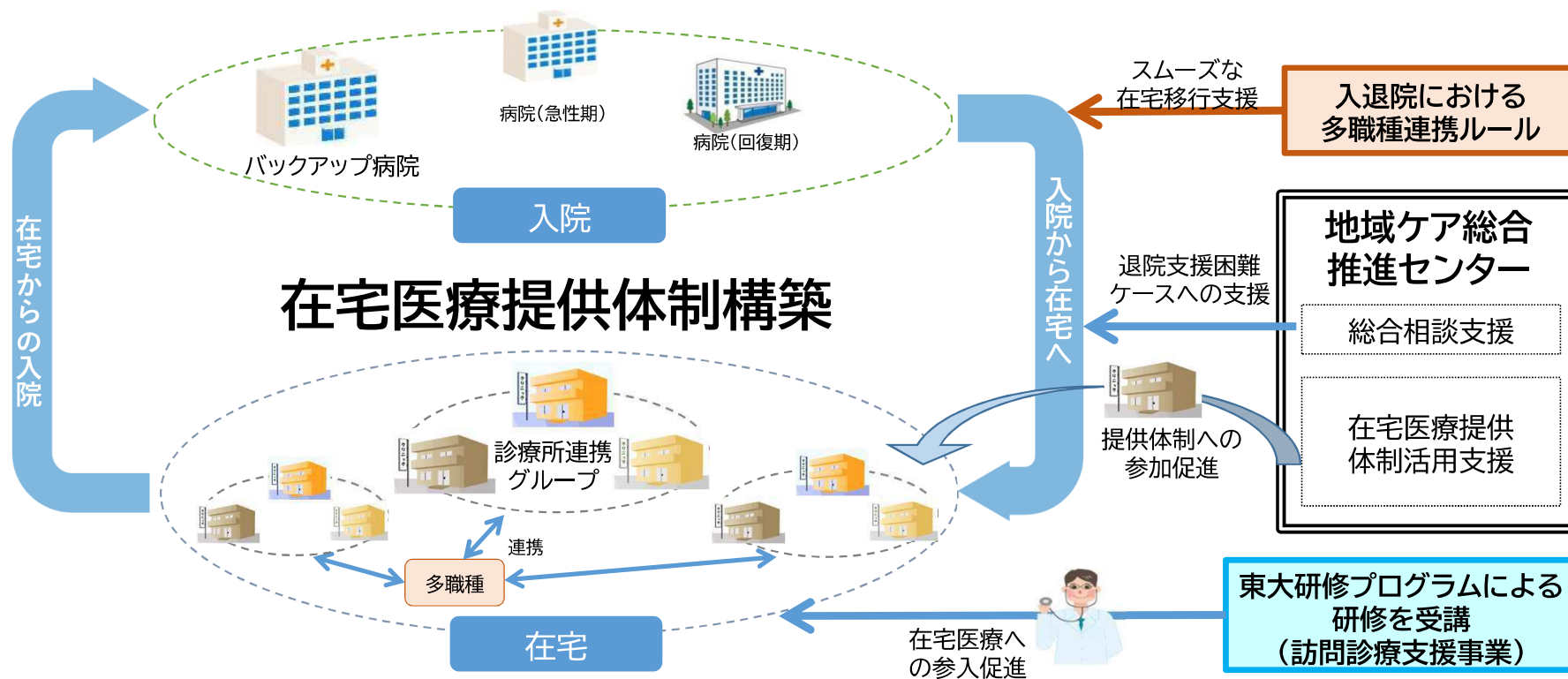
- ◆【定期講座】 令和3年度から開始

- ◆開催場所  
地域ケア総合推進センター(北区北長瀬表町二丁目17-80)
- ◆開催回数  
年10回開催予定
- ◆参加人数(R3.1月末時点)  
116人(平均16人/回)

→令和4年度は、夜間やオンラインでの開催を拡充する方向で調整

# 岡山市における在宅医療を推進するための体制整備

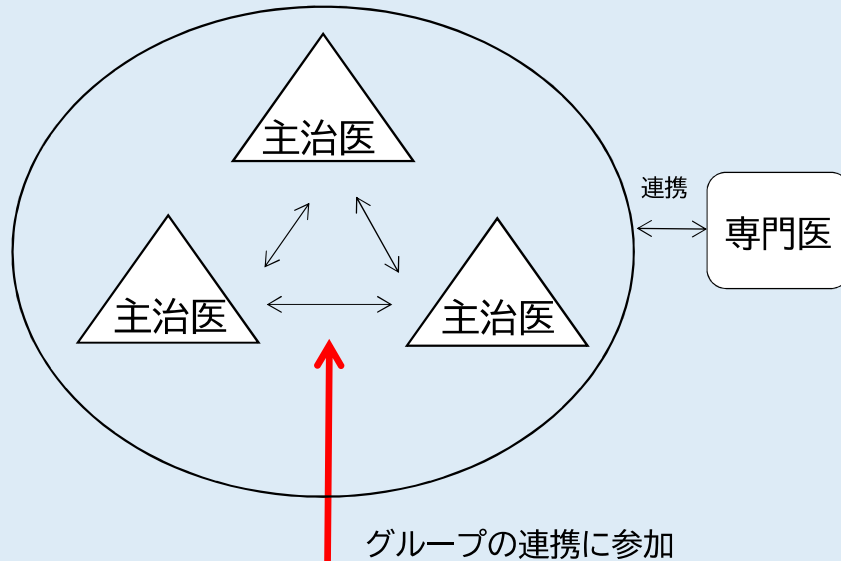
- ① 今後、増加が見込まれる在宅医療需要に対し、診療所医師の在宅医療に対する負担を軽減するバックアップ体制構築
- ② スムーズな在宅移行支援のための多職種連携ルールの活用
- ③ 病院における退院支援困難ケースに対する相談支援
- ④ 診療所医師の在宅医療への参入を促進するための研修の実施



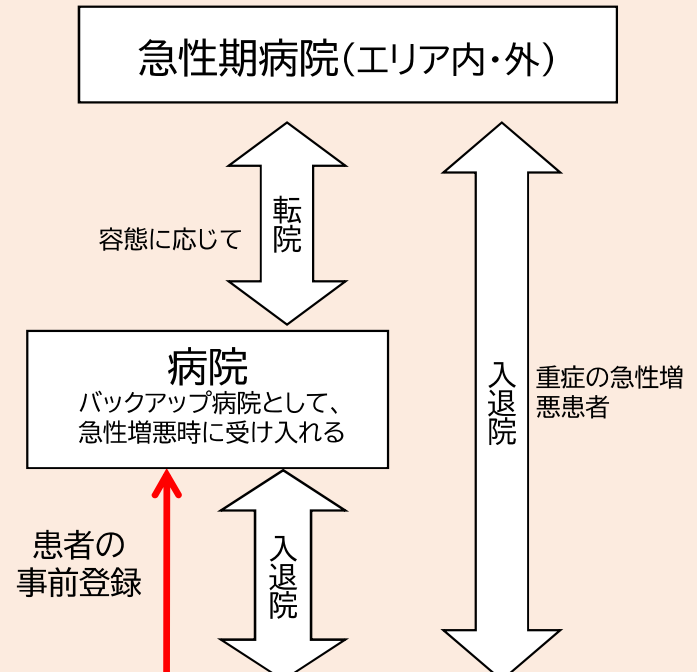
# 在宅医療提供体制における連携の全体イメージ

## 訪問診療提供のバックアップ体制

それぞれが副主治医として  
他の医師の不在時等のバックアップを担う。  
在宅で専門科目の診療が必要な場合は専門医と連携する。



## 急性増悪時等の病院のバックアップ体制



主治医（在宅医療への新規参入医師）

訪問診療支援事業を受講し知見を得て、エリアのグループへ参加

# 在宅医療提供体制の再構築に向けて

## コロナ禍により新たな課題が続出

### 【患者】

- 通院の抑制
  - 感染に対する恐怖
  - 経済的要因(離職、就労時間の減少等による収入不足)
  - 時限的措置によるオンライン診療(電話、情報通信機器)
    - 病状悪化に気づけないなど
- 訪問診療医等の訪問を拒否
- 入院できず在宅での経過観察
- 面会制限等により在宅療養が増加傾向

等々

### 【医療機関】

- 感染対策による院内立入制限
  - 退院支援等カンファレンスの減少
  - 病診連携、多職種連携の抑制
- 感染対策や感染者対応による業務拡大、過多
  - 医療従事者の過労働、疲弊、マンパワー不足
  - PCR検査、ワクチン接種
- 院内感染、風評被害等による患者の減少

等々

### 【社会背景】

- 生活スタイルの変化(外出制限による肥満の増加等)
- 今後のコロナ禍の見通しは不透明(終息?共存?)

等々

## ニーズの変化に対応

## 再検証作業

- ◎ 既にモデル事業実施地域の検証作業
- ◎ 各地域の課題の洗い出し作業
- ◎ 市内・地域毎の医療需要の洗い出し作業

## 関係機関との意見交換

各地域のニーズに対応した  
在宅医療提供体制の再構築

# 国保被保険者の特定健診 とがん検診の利用状況

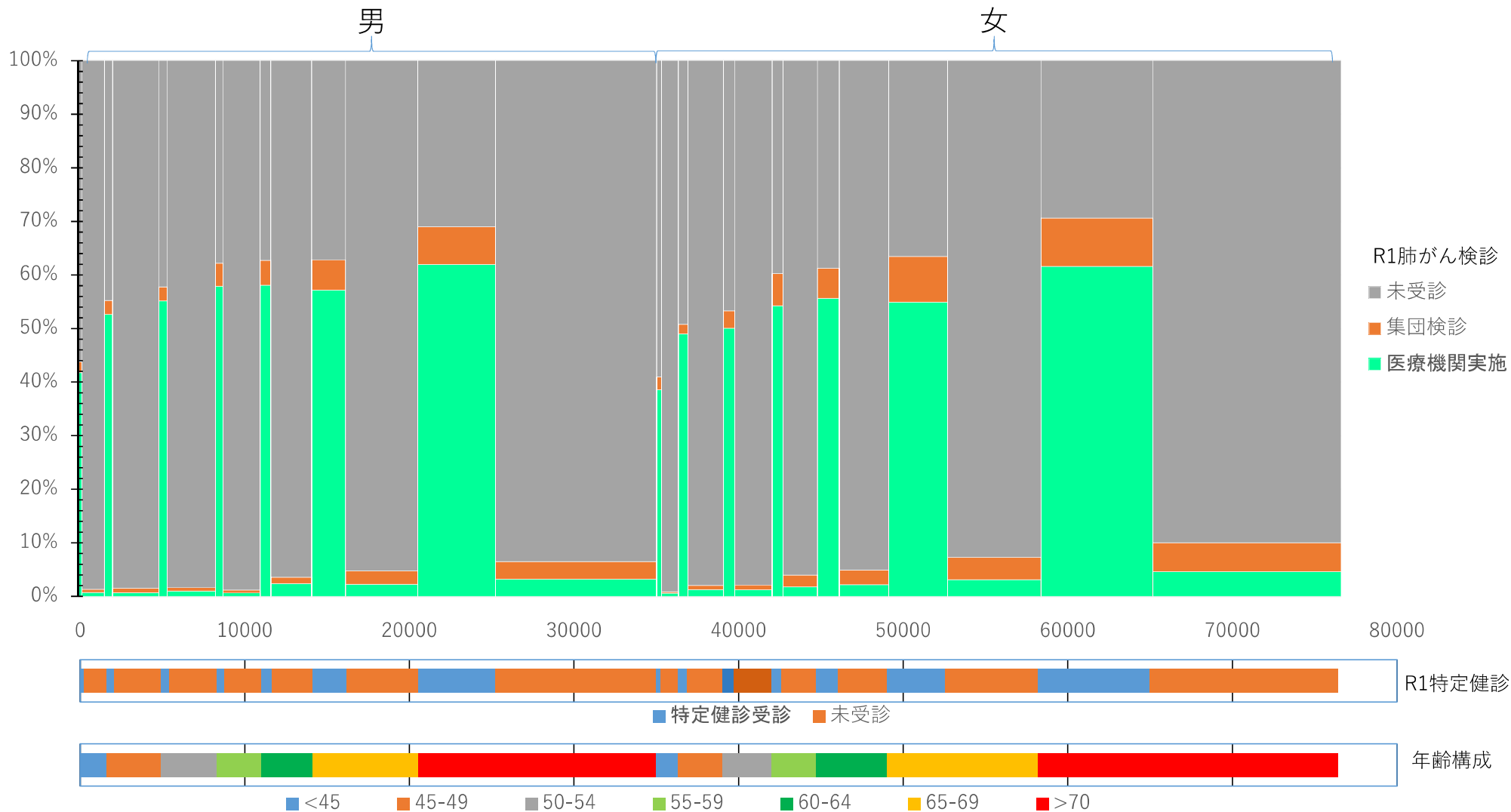
## ➤ 「同一年度の特定健診とがん検診」

令和元年度の国保特定健診と肺または大腸がん検診の受診状況を集計したものです。グラフ面積の広さで全体に占める割合を示しています。（N = 令和元年度の40歳以上国保被保険者）

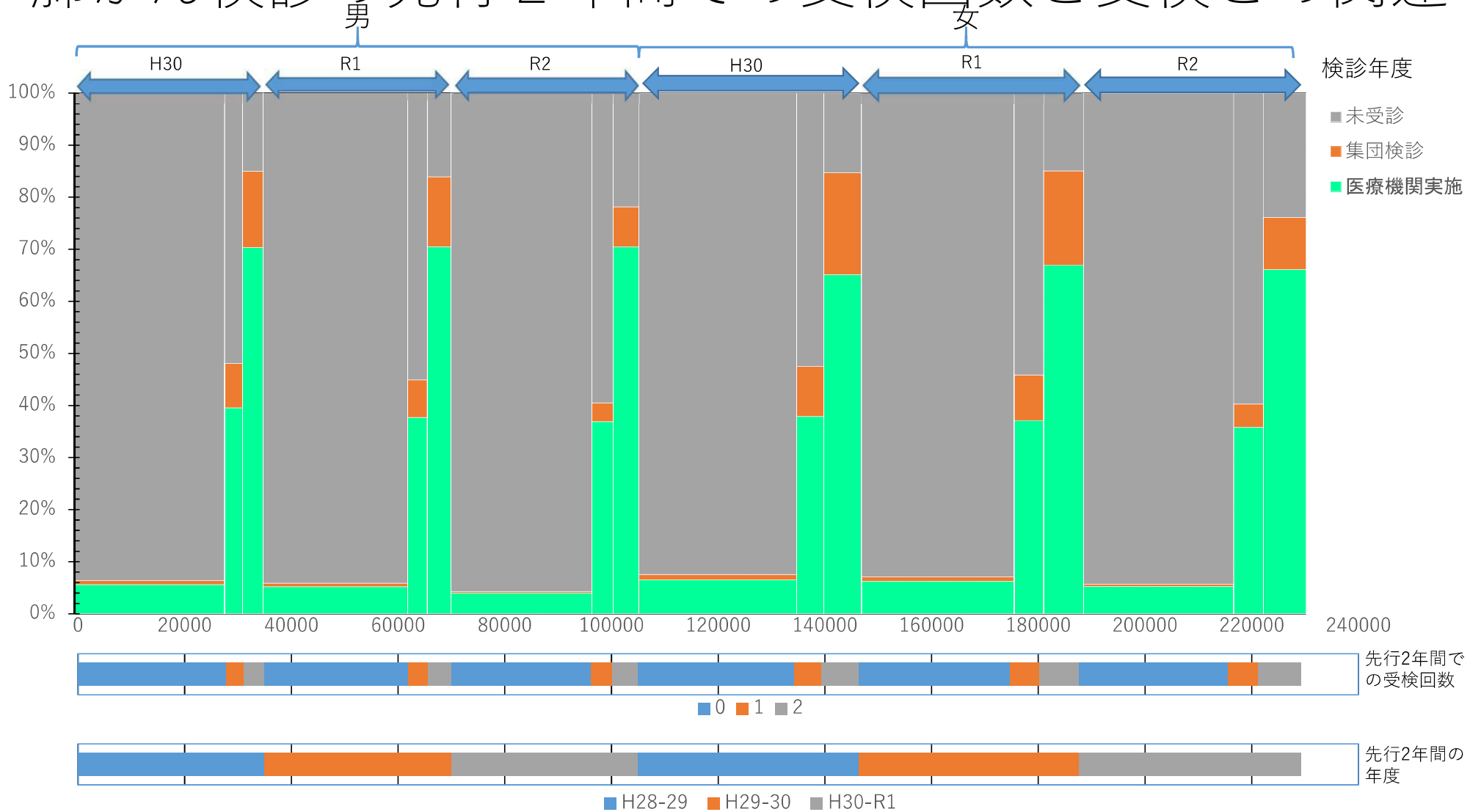
## ➤ 「がん検診の先行2年間での受検回数と受検との関連」

H28~H29年度・H29~H30年度・H30~R1年度の各2年間でのがん検診受診回数と、その翌年度のがん検診受診状況の関連をみたものです。グラフ面積の広さで全体に占める割合を示しています。（N = 平成28年度～令和2年度の5年連続で40歳以上の国保被保険者）

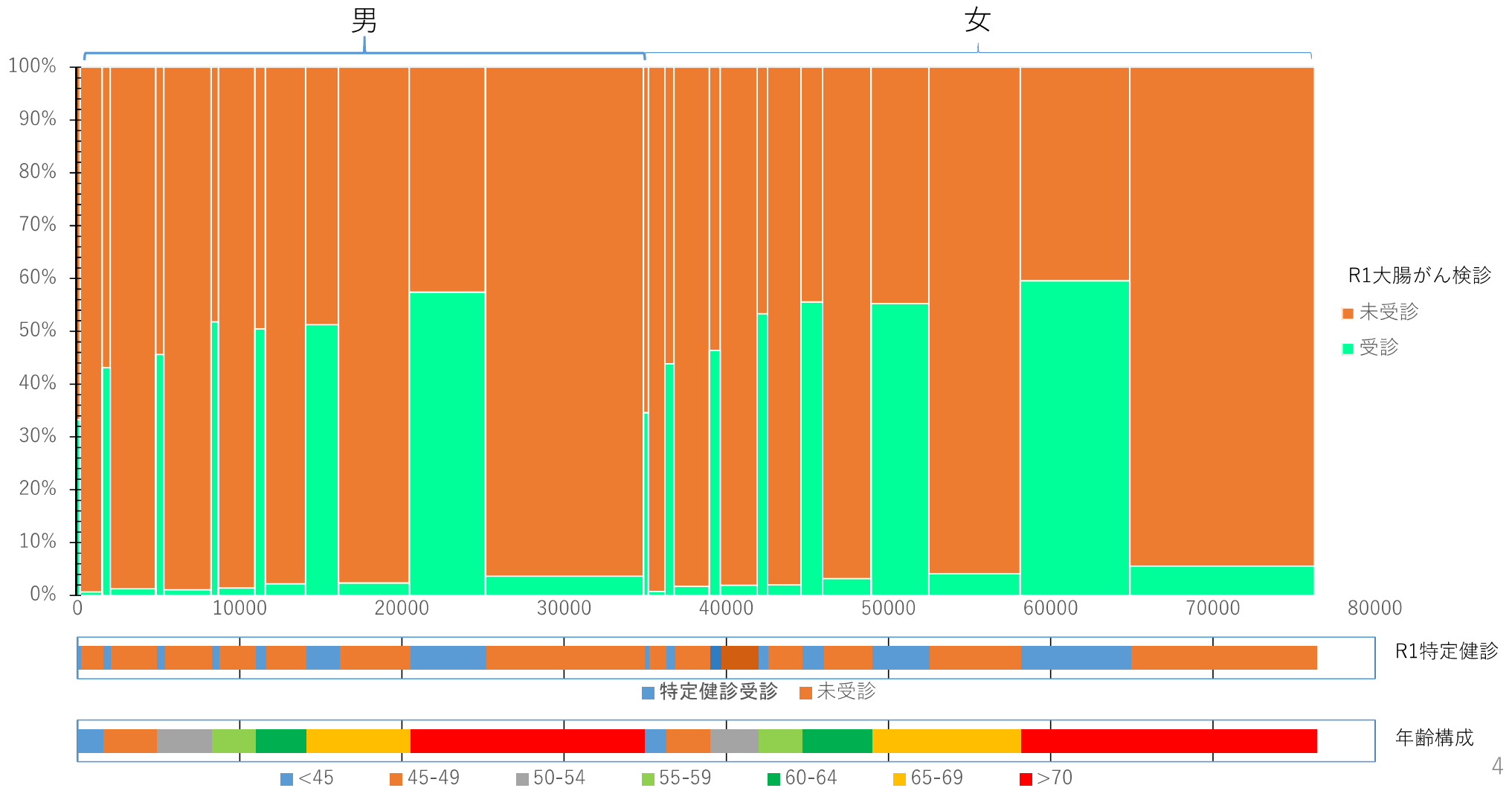
# 同一年度の特定健診受診と肺がん検診(令和元年)



# 肺がん検診の先行2年間の受検回数と受検との関連

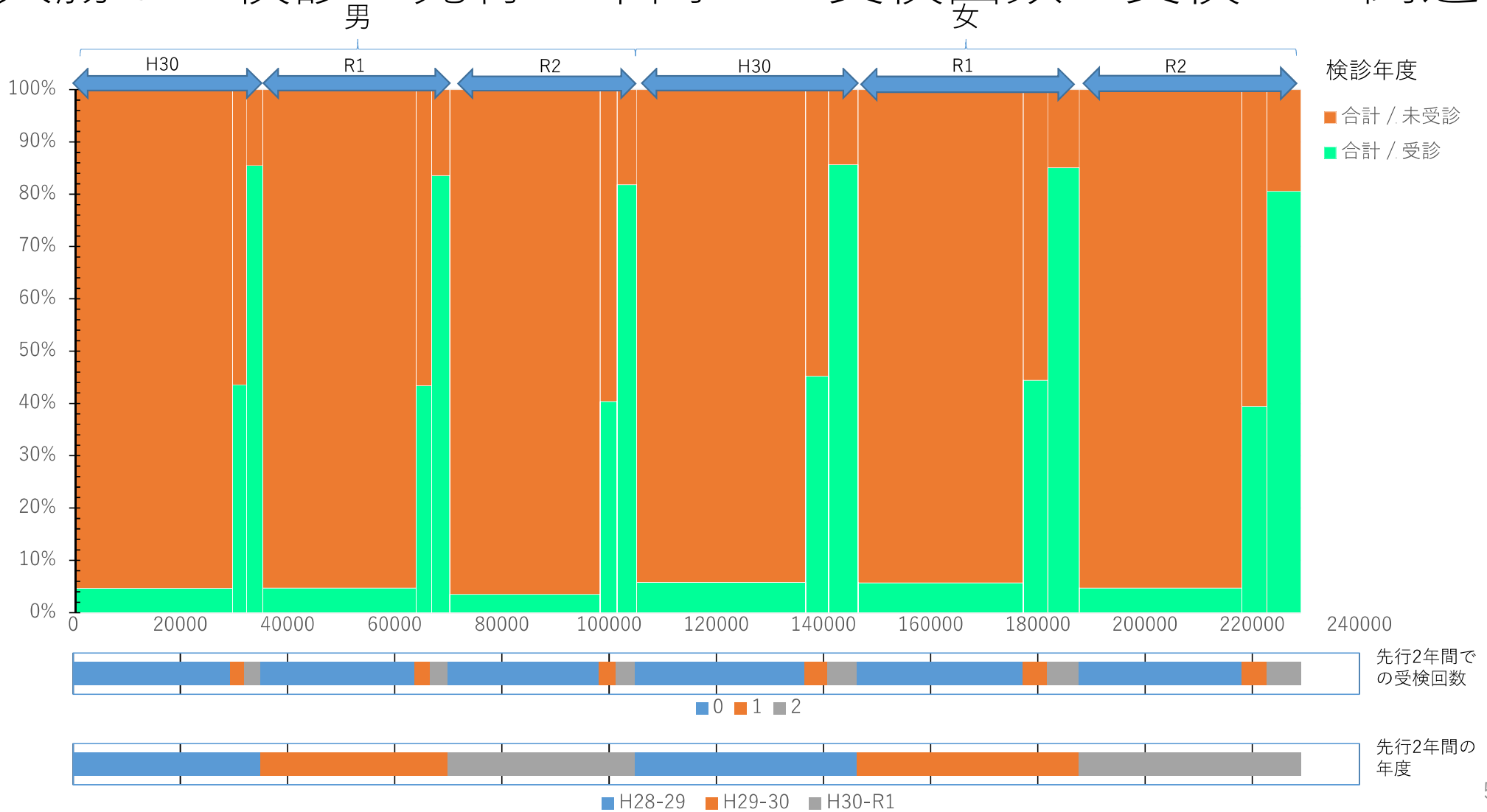


# 同一年度の特定健診受診と大腸がん検診(令和元年)





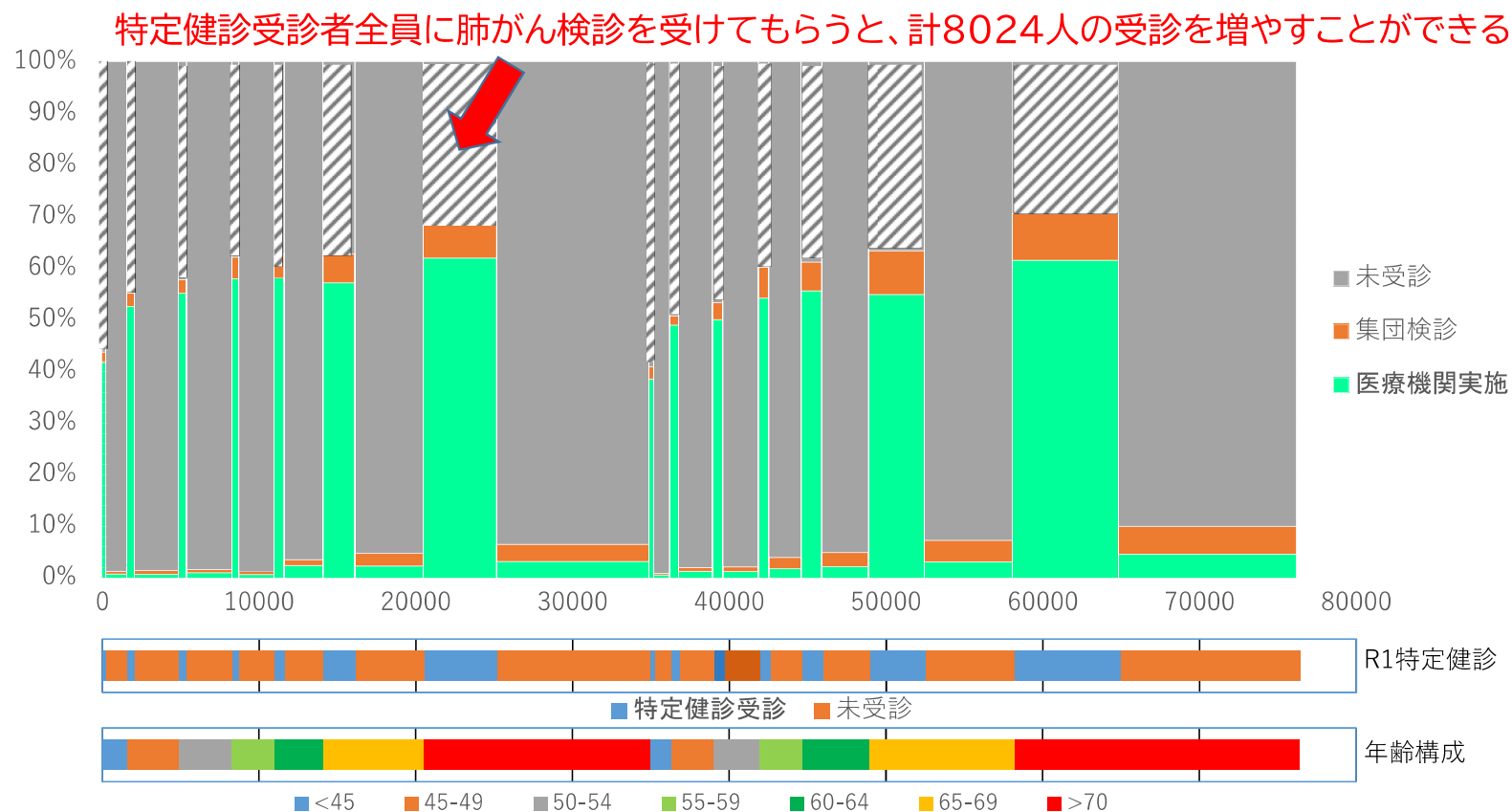
# 大腸がん検診の先行2年間での受検回数と受検との関連



# 今後のがん検診の取り組み

2ページ目 同一年度の特定健診受診と肺がん検診(令和元年)より

【グラフから分かること】 国保特定健診受診者はがん検診を受けている人が多い  
 ➡ 国保特定健診の対象者に、特定健診と合わせてがん検診を受診するよう勧奨する



**【グラフから分かること】**どの検診年度も、先行2年で2回がん検診を受検した人は、翌年もがん検診を受ける傾向がある  
**➡** 先行2年間で2回がん検診を受けた人で、翌年(3年目)にがん検診を受けていない人に受診勧奨する

